

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 6年 6月 8日
(133号)

中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集長 西村俊喜



「捨てなければ得られない」
市川 英俊先生
(五月度特別講義より)

■内観で意識する三つのこと

全国津々浦々を回られた、寺田一清先生との思い出、尊敬の念は尽きません。先生に教えていたいただいた「そやな」「ほんまや」「そのとおり」は相手を認める人間関係の基本となる言葉。十年間父の介護をしていたときも父の言葉に「そうだね」と受け答えストレスもなかつたと思えます。

「内観法」は吉本伊信先生が考案されました。内観法では三つのことを意識します。「お世話になつたこと」「してお返ししたこと」「ご迷惑をおかけしたこと」。私自身も初めてこれに取り組んだとき「自分はどれほど人様にお世話になり、そしてどれほど人様に迷惑をかけてきたことか」という気持ちになりました、その帰りの電車ではどの人も親しく握手して回りたいような思いに駆られたのを覚えてています。この内観法は刑務所でも取り入れられており、暴力団の組長が内観をやつた結果、暴力団を解散し、地道に働き始めたという話もあります。教師をしていたときに子どもたちが内観をするととても効果があり、たちまち変わることを体験して以来、教育の現場で「立腰」と「内観」の必要性を確信い

三上和志先生は一燈園で修行された方です
著書『人間の底』には先生の体験談が記され
ています。先生がある病院で講話を頼まれた
ときのこと、院長先生から入院患者である十
八歳の少年と話をして欲しいと頼まれました

■浮浪兒・尙一の話

「おっさん！」「なんだ」「笑つたらいかんぜ」「笑わんよ」一度でいいから“おとつ

何ひとつつなき身なれど
何ひとつ不足思わぬ暮
まさに清貧を生きられた

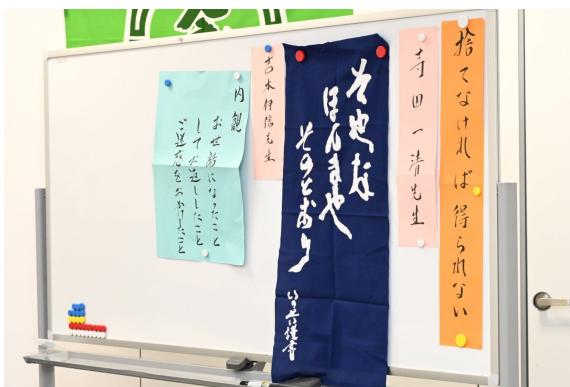
(抄録 中川千都子)

病院は少年を警察から預かっているという事情でしたが、現在重篤な結核に罹つております。また身寄りもなく大変荒れて手を焼いているとのことでした。当時結核は不治の病であります。感染が恐れられていました。先生はマスクなど防護することなく少年と面会されましたところが、どのように少年に声をかけても知らん顔。院長は諦め部屋を出ていき、先生も駄目か、と部屋を出していく寸前に振りかえると少年がこちらを見ていた。その人恋しい目を見た時、先生は病室に一晩残つて話をすることにしました。少年はげつそり痩せ、黒い顔をしていました。相変わらず話しかけても返事はないが「足をさすつていいか?」と申すつたそうです。すると少年が「おっさん、お前の手あつたかいな」。その子にとつてはまるでミイラのようになつてしまつた足をさしたのでしよう。そうしてその少年・卯一は生い立ちを少しづつ話し始め、両親がいないこと、転々と預けられていること、預けられた先で大人から暴力を受けてきたことなどを話します。そして逃げ出した先でお金を盗んで警察に捕まり少年院に入つたものの、肺病で入院することになつたとのことでした。そういうするうちに夕食の時刻となり、卯一に匙で粥を食べさせてやります。しかしほんの少ししか食べられない。その食べ残しを卯一は先生に「食べろ」と言います。その目はまるで試すように先生を見つめていた。そうするならお前を信じる、とでもいう目。先生は残

「つかん」とて呼んでいいかい」卯一は「おとつつかん」と泣きながら何度も呼び、先生も返事をしたそうです。

先生は夜を徹して卯一と話をして過ごしました。「人間は人の役に立つために生まれてきている」と話すと、卯一は「俺はもう死ぬから役に立つことなどない」と言う。先生はそんな彼に「病院で自分に携わってくれる人々に感謝することが“役に立つこと”」と伝えます。

翌朝はなり、先生が朝食を摂るために別室にいった間に卯一は静かに亡くなりました。毛布をめくると胸の前で合掌し亡くなつていたそうです。



「一言講話」
毎月、世話人が講話します。
5月は、加藤 昌夫世話人。
ありがとうございます。



- ◆ A グループ
 - ・そやな・ほんまや・その通り
 - ・貸し方の生活 ～陰徳を積む
 - ・捨てなければ得られない。
- ◆ B グループ
 - ・貸し方の生活
- ◆ C グループ
 - ・御靈を清める事が大切
 - ・人は誰かのために生まれてきた
- ◆ D グループ
 - ・人に喜んでもらう生き方
 - ・今日死んでも悔いが残らない生き方
 - ・そやな・ほんまや・その通り
- ◆ E グループ
 - ・身につく苦労・つかない苦労
 - ・貸し方の生活
 - ・最後の歌がよかつた
- ◆ F グループ
 - ・貸し方の生活
 - ・人は誰かのために生まれてきた
 - ・名利の念を避ける

「一語一會」

指導 近藤 宏枝 世話人

指導 中川 千都子 代表

「ありがとうございます」

- 五月二日 仕事を処理する上で最大の秘訣は、思い切って着手することです。「とにかく手をつける」ということ、すなわち即今着手にありと言つてよいでしょう。
- 五月九日 人は退職後の生き方こそ、その人の真価だといつてよい。退職後は、在職中の三倍ないし五倍の緊張をもつて、晩年の人生を取り組まねばならぬ。
- 五月二十四日 人は自己に与えられた条件をギリギリまで生かすという事が、人生の生き方の最大最深の秘訣。
- 一言メモ 読書会の輪読を進める中で「一語一會」に五月三十一日がないことに初めて気づきました！この謎をご存じの方はいらっしゃるでしょうか？。
- 一言メモ 「ありがとうございます」は、祈りの言葉。大和言葉は一音ずつに意味がある。

55 「言葉の通りに、思いの通りにすべては成る」というのが、宇宙の法則です。最高の祈り言葉「ありがとうございます」を、日常茶飯事に唱え続けることは、神様と一緒に着手を深めてゆく為の、一番易しくて、効果のある方法です。

62 人間の本当の心とは、歓喜の心なのです。人間の本性は、歓喜そのものです。歓喜の心を解放すれば、苦しみは消えるのです。

72 五欲の心の奴隸となるな！五欲とは財欲・名譽欲・色欲・食欲・睡眠欲のことです。五欲の奴隸状態から解放され、自由になる為には、宇宙の大神さまと一体の自覚・本心の自覚を深めてゆかなければならぬのです。

寺田一清先生に導かれて 近藤宏枝

(18)

「日本人の心根に学ぶ」

この度講師としてお迎えする白駒妃登美先生のご講話を初めて拝聴したのは、十年ほど前「人間学塾・中之島」の正にこの場所から始まりました。当時先生は「博多の歴女」と呼ばれ、歴史講座を各地で開かれていました。

先生は、大手航空会社の国際線客室乗務員という華やかな経歴をお持ちです。その頃は景気がどんどん上向いて、多くの日本人が勘違いをした生き方をしていて、日本人である誇りも感じていなかつたように思います。

お話の中で「日本人だから」というだけで、海外

では信用してくれる事に違和感を覚えられていました。現代人が感じる日本人と、先人が諸外国で示してきた本来の日本人の姿は、少しずつあります。

それがあるようと思えました。

古来日本人は、自分の置かれた場で「道」を求めてきました。そしてその道の中核を成すのが

「惻隱の情」だと説いて下さいました。

それから私はその一年後に、徳島在住の道友の方が主催する会で、再び白駒先生のご講演を拝聴

出来る機会が巡って参りました。その時ももちろん歴史から日本人の生き方を説いて下さいました。

が、なかでも関が原の戦で別れ別れになつた宇喜多秀家と豪姫の夫婦愛に心打たれました。戦に破れた秀家と二人の息子は八丈島に流され、豪姫はお米を、独り占めせず島民達に分け与えました。

それは豪姫亡き後も、明治に至る二五〇年間続いたそうです。島民の方々は四百年経つた今でも、ございました。私は日本人の心根に、改めて深く感じ入ったのでした。

○○○日時 7月13日(土)13時
講師 高野登先生

新時代に求められる資質とは
(ホスピタリティ的生き方)



長野県出身。ホテルスクール卒業後、アメリカへ。プラザホテルなどを経て、リッツカーリトンホテル日本支社長に。その後、人とホスピタリティ研究所を設立。

《人間学塾・中之島》次月日程

編集後記

東京都・新島からお越しいただきました市川英俊先生。なんと早速、お葉書をいただきました。即今着手。さすがだと改めて実感しました。

私は催眠術師です。皆様を眠らせます：いやいや。感動的なお話を頂け、また涙ながらに語るお姿はすばらしいものでした。

「そやな・ほんまや・その通り」寺田一清先生のお言葉を改めて感じたのでした。さて、早いもので今月・来月で講座の開催は終了となり、八月は卒塾式です。今期、感じられたものを早急にまとめて卒塾文として、ご提出をお願いします。

800字以内厳守でお願いします。

編集長 西村俊幸

高野登
リッツ・カーリトンが大切にする
サービスを超える瞬間
心が暖まる
「人の接し方」
ホスピタリティの原点

卒塾文集原稿
ご提出をお願い
します
提出期日
6月末日
提出先
メール 中之島編集部
手書き 事務局

人間学塾・中之島
編集部メールアドレス
2012nakanoshima@gmail.com

中之島ニュースは塾生の皆様
のためのものです。
無断で転載・配布・SNS利
用などはご遠慮ください。